

降霜 (早霜) に対する営農技術対策

平成 15年 9月 18日
北海道農政部

低温と霜に関する北海道地方気象情報 (第 1号)

平成 15年 9月 18日 11時 20分
札幌管区気象台発表

(見出し)

北海道地方は、21日から22日にかけて冷え込みが強くなり、明け方には霜のおりる恐れがあります。

(本文)

北海道地方は、21日から22日にかけて上空には10月中旬並の冷たい空気が入る見込みです。このため冷え込みが強くなり、明け方には霜のおりる恐れがあります。

農作物の管理などに十分注意して下さい。

今後、地元気象台や測候所が発表する気象情報に注意して下さい。

1 豆類について

大豆・小豆の登熟の遅れていることから、霜の影響による減収を最小限とするため、次のとおり技術対策を行う。

(1) 初霜が早めと予想される場合、小豆は熟莢率が30%以上になると減収程度が低いので、『にお積み』を行うことを前提として早期に刈り取りを行う。この場合、葉の落葉程度で刈り取り時期を判断せず熟莢の割合で判断する。

(2) 早期に刈り倒した小豆は、そのままの状態では莢に霜害を受けるので、やや大きめに集めて『島立て』状態とし、霜害を最小限に止める。なお、日中はでき

る限り広げて乾燥させる。

(3) 水分の多い状態で「にお積み」すると、ムレによる品質低下をきたすので、十分に乾燥させてから、「にお積み」を行う。

2 施設園芸について

施設野菜・花き等への霜による影響を最小限にするため、次のとおり技術対策を行う。

(1) 早霜が予想される場合は、早めにビニールハウスを閉めて保温に努める。